CONTENTS

大阪消防 12

表紙：防火標語とビジョンカー

01：コンテンツ／災害概況
02：特集 2025年 大阪・関西万博　最終号
～ 万博消防センターの活動を振り返る ～
08：コマンドアイ
10：ケイボウタイムズ
12：明日に備えて過去に学ぶ
13：人材育成のヒント
14：Just Do It！
16：イクキュー
19：市民表彰
20：ジョカツ!!
22：救急いろは
24：実録!! 調査鑑識
26：We are Rookies！
28：大阪の消防NEWS
30：住宅用火災警報器で歌おう
31：令和７年度 大阪市防火ポスター
32：落語DE火の用心
33：自衛消防隊紹介 ／ 女性防火クラブだより
34：【職務】予防業務のデジタル化について
36：健康ダイアリー
37：現場に活かす！救急救命士国家試験問題
38：消防漢字ガール
39：淀橋広子の広報講座
40：救急安心センターおおさかだより ／編集後記

大阪市の災害概況

◎火災概況

	建物火災				小計	車両	船舶	爆発	その他	合計
	全焼	半焼	部分焼	ぼや						
10月中件数	0	1	7	30	38	7	0	0	7	52
令和7年10月末累計	15	17	128	323	483	36	0	1	89	609
令和6年10月末累計	11	16	140	314	481	36	1	2	72	592
累計比較	4	1	▲12	9	2	0	▲1	▲1	17	17

◎救急概況

	救急出場
10月中件数（概数）	20,731
令和7年10月末累計	218,997
令和6年10月末累計	221,924
累計比較	▲2,927

◎火災・救急以外の消防活動概況

	救助活動	危害排除	水防活動	その他
令和7年10月末累計	3,850	1,099	4	1,052
令和6年10月末累計	3,866	1,080	0	976
累計比較	▲16	19	4	76

＼2025年 大阪・関西万博／最終号
～ 万博消防センターの活動を振り返る ～

日常業務

【 警防担当・救急担当 】

警防担当では、会場内に設置されている消火栓の調査や会場内での災害対応に関する資料の作成などに取り組んだほか、パビリオンの関係者に対して救命講習や初期消火訓練の指導を実施しました。海外パビリオンでは、語学が堪能な職員を中心に英語で指導を行い、国境を越えた交流も行われました。

警防担当の事務作業

使用前点検

海外パビリオンでの救命講習

会場関係者への消火設備の説明

府内消防本部の受託研修

大阪ウィークでのイベント

【 予防担当 】

会場内にあるパビリオンなどの設置の届け出や相談に対応するほか、会期中には、会場内の巡回や、すべての対象物に対して立入検査を実施しました。消防法令違反の有無を確認し、是正指導を行い、災害を未然に防止することで、来場者の皆さんが安全に施設を利用できるよう取り組みました。また、大阪府内の消防本部から受託研修生を受け入れ、研修生とともに大阪・関西万博消防センター設置前から一丸となって業務に取り組みました。

パビリオンに対する立入検査

予防担当の事務作業

＼2025年 大阪・関西万博／最終号
～ 万博消防センターの活動を振り返る ～

大阪・関西万博消防センター解散式

大阪・関西万博　閉幕までの軌跡

令和7年10月13日に閉幕した大阪・関西万博。令和7年2月3日の運用開始後、会期184日間、24時間体制で会場の災害や救急事案に対応し、来場者・関係者の安全・安心を支えた大阪・関西万博消防センターの軌跡をグラビアで振り返ります。

開幕に向けて

開幕に向けて、令和7年2月3日に大阪・関西万博消防センターが設置され、大阪市内の各消防署から選りすぐりの職員が集まりました。

開幕までの期間、特殊な構造のパビリオンに関する警防資料の作成や、協賛車両であるEVポンプ車の操作研修などを実施し、来たる災害に備えました。

開所に伴う局長訓示

EVポンプ車の事前操作研修

警察との合同発足式

大阪・関西万博消防センターの配備車両

＼2025年 大阪・関西万博／最終号
～ 万博消防センターの活動を振り返る ～

博覧会協会との連携・警戒活動

　博覧会協会との円滑な連携を図るため、医療救護スタッフと研修を実施したほか、博覧会協会の危機管理センターに隣接する消防指揮室では、災害発生時に博覧会協会、警察、警備員など各機関が連携して対応に当たりました。
　また、大規模イベント開催時には災害発生に備え、通常時の移動配備隊に加えて、大阪市内から消防車両を集結させ、特別警戒を実施しました。警戒隊は、ブリーフィングを行い共通認識を図ったほか、会場内での走行訓練を行い、迅速に災害発生場所に向かうことができるよう万全の体制を整えて警戒に当たりました。
　そのほかにも、海に面している会場の特性に合わせ、消防艇による海側からの巡回を実施し、海上からも警戒に当たりました。

特別警戒時の集結車両

特別警戒時のブリーフィング

移動配備隊に対する走行訓練

博覧会協会との医療救護研修

消防指揮室での情報収集訓練

消防艇まいしまによる万博海上警備巡回

＼2025年 大阪・関西万博／最終号
～ 万博消防センターの活動を振り返る ～

各種訓練

　世界各国から多数の来場者が訪れる万博会場。不測の事態に対応するため、万博開催前には、NBC災害やテロなどを想定した訓練を実施し、警察や関係者との連携を確認しました。
　万博開幕後も継続して、大屋根リングでのホース延長訓練や、LT車※による救出訓練を実施しました。また、特殊で複雑な構造のパビリオンでの火災想定訓練を実施し、救出経路などを確認したほか、外国人スタッフとの連携も図ることができ、来場者の皆さまに安全・安心に万博を楽しんでいただくための体制を整えました。
　そのほかにも、開幕中は猛暑日が続いたため、隊員の熱中症対策として、地道な暑熱順化トレーニングも欠かさず実施しました。

※ 21mブーム付高所活動車（万博LT21）

大屋根リングでのLT車による救出訓練

夢洲駅での国民保護訓練

警察と連携した合同テロ対策訓練

ドイツ館での夜間訓練

日本館での火災想定訓練

暑熱順化トレーニング

大阪ヘルスケアパビリオンでの
多数傷病者訓練

＼2025年 大阪・関西万博／最終号
～ 万博消防センターの活動を振り返る ～

数字で振り返る 大阪・関西万博

大阪・関西万博消防センターでは、会場で発生した災害に対応するほか、立入検査や救命講習など様々な業務に取り組んできました。

大阪・関西万博消防センター職員の活動について、数字で振り返ります。

【 業務活動 】

種別	件数※1
救命講習	14
訓練指導※2	23
立入検査 巡回	499
車両展示	12

【 災害活動 】

種別	件数※1
火災	3
救護	29
救助	7
救急	1,119

※1 4月13日～10月13日の184日間に会場内を含む夢洲エリア全体での活動。
※2 訓練指導とは、パビリオン等で実施する消防訓練に立会い、指導を行うこと。

「次世代への布石」

大阪・関西万博消防センター所長
下正 博之

令和6年10月より、万博消防センター所長に就任し、令和7年2月から万博会場内での勤務を開始いたしました。センター所長として、万博期間中は防火・防災対策の強化に努め、博覧会協会や会場警察隊、関係機関との連携を通じて安全・安心な会場運営を推進してまいりました。

大阪・関西万博では、184日間の会期を通じ、2500万人を超える来場者の安全確保を第一に、博覧会協会や会場警察隊、各関係機関と連携し、研修や訓練を幾度となく繰り返すことにより対策を強化し万全な体制で挑みました。

特に博覧会協会との連携を通じ、組織の垣根を越えて「安全・安心」という共通の目標に向かい協力することの意義の大きさと、その難しさを改めて実感いたしました。

期間中は警防訓練等を57回、立入検査や巡回等を500回近く実施し、現地スタッフ・職員の迅速な対応で、来場者2500万人超の安全・安心を確保することができました。

また、国際的イベントの特色を活かして外国パビリオンと合同訓練も実施し、スタッフの皆様にも本番さながらの真剣な姿勢でご参加いただきました。

多文化間でも協力体制を築き、言語・文化の壁を乗り越えた経験は貴重なものとなりました。

閉幕を迎えた今、私たちが得た教訓や経験、さらに未来社会や災害対策に関する新たな技術や知見を未来の消防へ活かすべく、今後も職員一同取組みを続けて参ります。

この場を借りて、万博消防センターの運営にご尽力いただいたすべての皆様、各署から選抜・派遣された職員の方々に深く感謝申し上げます。

おわりに

令和6年4月から大阪・関西万博についてお伝えしてきました万博特集も今回で最後となります。連載を開始した頃は、会場も空き地だらけで、開幕後の様子を全くイメージできませんでしたが、終わってみれば世界中から多くの来場者が会場を訪れ、大盛況となりました。

大阪市消防局は、大阪・関西万博の安全・安心を守るため、大阪・関西万博消防センターを中心に一丸となり、各種業務に取り組んできました。

今後もＩＲなど更なる発展が見込まれる大阪市。大阪・関西万博での経験を消防局のレガシーとして受け継ぎ、職員一人ひとりが業務に取り組むことが重要であると考えています。

これまで大阪・関西万博特集をご覧いただきありがとうございました。

企画課（国際博覧会）

＼2025年 大阪・関西万博／最終号
～ 万博消防センターの活動を振り返る ～

未来の消防活動の検証

大阪・関西万博のコンセプトである「未来社会の実験場」に即した消防体制を万博会場内の消防活動に取り入れるため、株式会社モリタホールディングスと、未来社会における最適な消防活動の実現を目指した共同研究開発に関する協定を締結し、大阪・関西万博消防センターにおいて実証実験を実施しました。

冷却機能を備えた新型の現場外套をはじめ、災害現場の情報を一元管理できるDX指揮卓や、位置情報や建物図面などをDX指揮卓と連携することにより、リアルタイムで確認できるDX隊員装具の検証及び訓練を行い、未来の最適な消防活動の実現に向けて取り組みました。

また、会場内に多数導入されたEV車両の火災に対する消火方法の検証も実施しました。

EV車の消火方法の検証

DX指揮卓の検証訓練

ブルートレーサー※による放水訓練

冷却機能付き外套の検証

会場内でのEV指揮車展示

DX隊員装具の検証訓練

※ ブルートレーサーは無人放水が可能な資器材で、車体にカメラが搭載されているため、遠隔操作で放水することができます。

商店街(アーケード)における大規模火災

北方面隊

■はじめに

本火災は、アーケード付き商店街における火災である。

消防隊到着時、すでに複数棟に延焼が拡大しており、街区全体を包み込むかのような火勢となっていた。『災害点の大幅な修正による混乱』、『明らかな消防力の劣勢』という状況下においても、冷静かつ的確な対応により被害を最小限に抑えることができたポイントと、多発した建物の崩落、特に活動中の消防隊の至近距離で起きた壁体が丸ごと倒壊するという極めて危険な現象について紹介する。

■火災概要

覚知日時	令和7年7月某日 4時49分
第1出場	4時51分
第2出場	4時57分
第3出場	5時09分
鎮圧時間	7時47分
鎮火時間	翌8時39分
建物構造	木造トタン葺一部鉄板葺一部瓦葺モルタル塗 2階建 (建90㎡／延180㎡) 1棟3店舗
焼損程度	180㎡焼損。他5棟を含む、合計6棟(9店舗2併用住宅) 540㎡焼損。2㎡表面焼損。

■活動内容

大阪市の主要駅前に位置するアーケード付き商店街で発生した。出場指令は「付近建物出火」とされ、情報が不足した状態での出場となった。

先着隊が指令場所付近に到着すると、黒煙は南に遠く離れた位置から立ち上がっていたため、災害点の大幅な修正が必要となり、転進を余儀なくされた。

実際の災害点は指令住所から南に2街区離れており、現場ではアーケード内の建物正面(街区西面)から火炎が噴出。さらに街区の北面及び南面では、それぞれ街区東側の隣接建物へと延焼拡大している状況であった。

延焼範囲は建面積で200㎡を超えており、すでに第2出場が指令されていたが、街区全体の状況を確認した時点で災害規模の全容が明らかとなり、消防力が明らかに劣勢であったため、第3出場を要請した。延焼阻止線に設定した建物内をはじめ、各方面の路上及び建物屋根上、アーケード上への筒先配備により包囲体制を構築。

結果として、覚知から2時間58分後に鎮圧に至った。

火元建物街区西面

■活動のポイント

1 延焼阻止線の決定

消防隊到着時には、延焼範囲は、焼損棟①②③④まで広がっていた。

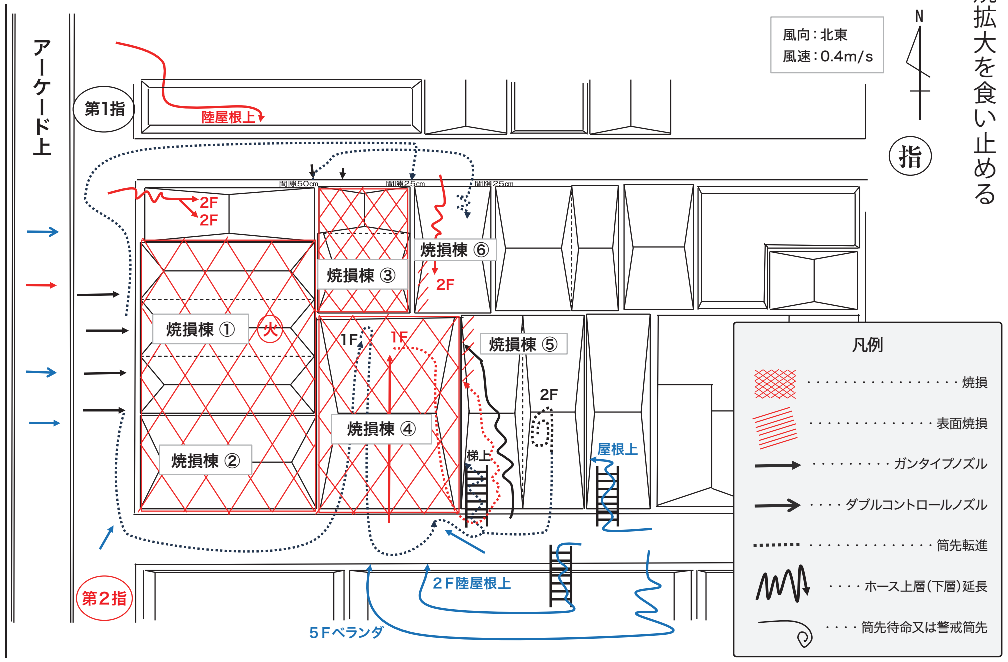
北及び南の方面指定隊は、到着直後に、建物の境界を見極め、煙の出方から延焼阻止線を迅速に判断。南面では焼損棟⑤、北面では焼損棟⑥に対して、躊躇なく屋内進入して小屋裏の破壊及び外壁を突破し拡大してきた火炎をいち早く発見し、放水を行った。この放水は高い効果を発揮し、焼損棟⑤及び⑥以東への延焼拡大を阻止することができた。

2 延焼火力の減衰を目的とした主火力(燃焼実態)への放水

広範囲に延焼が拡大している状況下において、延焼阻止線の設定と並行して、火勢の中心である焼損棟①への放水が極めて重要な対応となった。

ただし、この主火力への放水は、延焼阻止線の建物内に筒先を配備し、確実に延焼拡大を食い止める体制が整っていたからこそ、効果を発揮したものである。もし延焼阻止線が不十分なまま火元建物に対してスプレー放水を行えば、放水による押し込み気流が発生し、かえって延焼を助長する危険性がある。

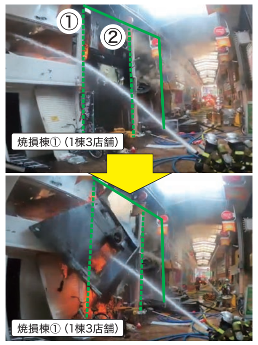
そのため、延焼危険箇所を包囲すると同時に、最も強い火力の減衰を目的として、火元の燃焼実態に対しストレート放水を実施。押し込み気流を発生させないよう正面からの消火を徹底することで、輻射熱による延焼危険を排除しつつ、鎮圧に向けた着実な消火活動を実施した。



■現場活動中に発生した活動危険

本火災の特筆すべき点は、屋根材の落下、上階床の崩落、モルタル壁の剥落といった比較的よく見られる現象に加え、商店街特有の構造に起因する外壁全面の一斉崩落の発生である。この崩落はパラペット看板や化粧板で正面外壁を覆っている建物において発生した。

このような建物では、主要構造部が老朽化により脆弱化していることが多く、火災によって燃焼が進行すると、パラペット看板や化粧板が重ねて打ち付けられている壁面や柱、継ぎ目が焼失し、看板の重量によって壁体全体が手前に倒壊する危険性が高まる。



崩落した時の状況

崩落した時の状況を見てほしい。建物①2階外壁と建物②2階外壁の境目から炎が見えていることからもわかるように、すでに建物②の外壁が剥離し始め、その重量によって手前に倒れてきている状態である。

この崩落では、真正面に放水隊員2名が折膝姿勢で放水を実施していたが、崩落のスピードに対応できず動くことはできなかった。あと数㎝位置がずれていれば負傷を回避できなかった可能性が高い。

火災現場では、危険を察知することが重要である。日頃からの危険予知トレーニングを継続することはもちろん、実際に出場した火災現場で崩落や倒壊が発生している場合には、引き揚げるまでに自らの目で現象を確認し、その経過やメカニズムについて考察してほしい。

■まとめ

本火災は、消防隊到着時の燃焼範囲が広く、どこから手を付けるべきか判断に迷うような状況であった。

しかし、火災規模が大きくとも、延焼阻止線を確実に設定し、必要な筒先数を確保して守り抜くことが極めて重要であり、鎮圧に至るまでの一連の活動が、各隊の任務遵守と的確な判断に基づいて展開された。その結果として、被害の最小化が実現されており、今後の消火活動における模範となる現場対応であったと言える。